

# 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西成区
学 校 名	大阪市立長橋小学校
学校長名	坂 幸之介

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長橋小学校では、第6学年 24名

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本年度の平均正答率は、国語科、算数科とも全国及び大阪市の平均正答率より下回る結果となっている。

観点別に見ると、国語科では『話すこと・聞くこと』の領域、『言葉の特徴や使い方に関する事項』で課題が確認できる。『書くこと』の領域については定着の成果が表れつつある。算数科では全体的に課題が見られるものの、『データの活用』領域においては他の領域よりも差が縮まっている。

児童質問紙では、『国語の授業の内容はよくわかる』『算数の勉強は好きだ』の項目で全国平均を上回る結果となり、普段の授業に意欲をもって取り組んでいることが窺える。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕国語科の調査においては、全国平均を9.7ポイント下回る結果となった。分析を通して、次の成果と課題が見えてきた。

まず、『話すこと・聞くこと』の領域である『目的に応じてスピーチの構成を考える』問題や『目的や意図に応じ資料を使って話す』問題では、平均正答率が全国平均より15ポイントを超えて下回っている。無回答率は4.3%と比較的低い問題でありながら正答率に差が生まれていることから、『話すこと・聞くこと』の領域、特に「目的に応じて考え話す」ことに課題があることが窺える。

次に、漢字・文法の習得に関わる『言葉の特徴や使い方に関する事項』の平均正答率も全国平均より8.9ポイント低くなっている。特に、漢字の問題においては無回答率が約20%となっていることから、語彙力の向上は継続した課題としてあげられる。

一方で、『書くこと』の領域の『自分の主張が明確に伝わるよう、文章の構成や展開を考える』問題では、全国平均を上回る結果となっている。国語科の学習や他の取組で自分の思いを書き表すことを丁寧に行っていることもあり、『書くこと』の領域は全国平均より下回っているものの、徐々にではあるが力をつけてきていることが窺える。

無回答率については本校平均は10.8ポイントで、大阪市平均、全国平均を大きく上回る結果となっている。最後まで諦めずに取り組む姿勢の醸成に努めたい。

〔算数〕算数科の調査においては、全国平均を11.2ポイント下回る結果となった。分析を通して、次の成果と課題が見えてきた。

どの領域の問題においても、平均正答率が全国平均に近いものもあれば、大きく下回るものもあるため、学習がしっかり定着するよう今後も丁寧な指導を続ける必要のあることが窺える。特に、『数と計算』領域では無回答率も15%以上と高いため、朝の学習の時間の活用や短時間での計算練習など基礎基本の定着の取組が必要であると考えられる。

新学習指導要領により新設された『変化と関係』領域や『データの活用』領域の問題は全国平均に迫るものも多くあった。『データの活用』領域では5問中4問で無回答率0%であり、最後まで問題に向き合う姿勢が表れている。今後の学習、中学校の学習に繋がるよい傾向が見て取れる。

無回答率は7.9ポイントとなり、大阪市平均、全国平均を上回る結果となっているが、算数の問題では16問中7問で無回答率0%となっている。最後まで諦めずに取り組む姿勢をさらに高めたいと感じる。

「国語の授業内容はよく分かる」と回答する児童の割合は87.3%と、全国平均より3.3ポイント上回っている。日常の学習に対する満足度は高いことが窺えるものの、学力調査の結果として表れていないところが残念である。また、「国語の授業では目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」と肯定的に回答する児童の割合が、全国平均より22.1ポイント下回っている。今後の学習において、学習に対する満足度が減退しないよう授業実践を続けていくとともに、『話す・聞く』取り組みをさらに取り入れ、児童の力量向上に努める必要がある。

「算数の学習が好きだ」と回答する児童の割合は79.1%で、全国平均より11.3ポイント上回った。算数に対する、興味・関心の高さが窺える。興味・関心の高さが意欲になり、日常の学習の取り組み方や調査での無回答に繋がっていくため、今後もその気持ちを維持できるよう努めていきたい。

学校の授業以外での学習時間や読書時間が全国に比べて非常に少なくなっている。「全くしない」と回答した児童の割合も全国平均よりも上回っている。学校内での取り組みを充実させることで自学自習や読書の大切さ、おもしろさを伝えていく必要がある。

「将来の夢や目標をもっている」との質問に肯定的に回答した児童の割合は83.4%、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」との質問に肯定的に回答した児童の割合は87.5%で、自身の目標に前向きに取り組む姿勢が窺える。この気持ちを大切に、今後も維持できるようにし、児童が自己実現ができるよう支えていきたい。

## 今後の取組(アクションプラン)

児童一人ひとりの学力を的確に捉え、実態に応じた学習環境を整えたり、支援を行ったりしていきたい。そして、児童にとって『主体的・対話的で深い学び』となるように学習や取組を進めていく。教育効果を上げるために、教科学習での充実を図るとともに、人権教育も充実させる。様々な教育活動を通して自己肯定感を高め、様々な角度から達成感や満足感を味わわせることで児童の学力向上につなげていきたい。

- ・ 計算・漢字などの基礎・基本の定着。
- ・ 児童の実態に応じた習熟度別学習・少人数授業を取り入れた細やかな支援を行う。
- ・ 児童の実態に応じた個別教材の作成を行う。
- ・ 個別の指導計画の作成を行う。
- ・ ICT機器を活用し、視覚・聴覚支援を充実させる。
- ・ 朝学習の時間で、よみきかせや読書・計算などを行う。
- ・ 読書ができる環境の整備を行う。（読書活動の推進）
- ・ サポーター（学習支援）の配置を行う。

（学力向上支援サポーター・特別支援教育サポーター・帰国・来日等のコミュニケーションサポーター）

- ・ 学びの定着を図るための放課後学習の保障。（スマイル教室・教室での学習補填）
- ・ エビデンスに基づいた指導計画の作成。  
（各種アンケート・算数チャレンジ・多層指導モデルMIM・hyper-QUなど）
- ・ 地域との交流や多文化共生教育を充実させ、児童の自己肯定感の向上につなげる。
- ・ ユニバーサルデザインの授業づくり。